

トビウオ通信 (R2 第6号)

<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

《令和2年度第2回日本海スルメイカ漁況予報》

令和2年7月29日に国立研究開発法人 水産研究・教育機構より「2020年度第2回日本海スルメイカ長期漁況予報¹⁾」が発表されました。今回はその概要と島根県沖でのこれまでのスルメイカ漁況を紹介します。

今後の見通し(令和2年8月~12月)のポイント

対象魚種：スルメイカ

対象海域：日本海（道北・道央、道南・津軽、本州北部日本海、西部日本海、沖合域）

対象漁業：主にいか釣り・小型いか釣り漁業

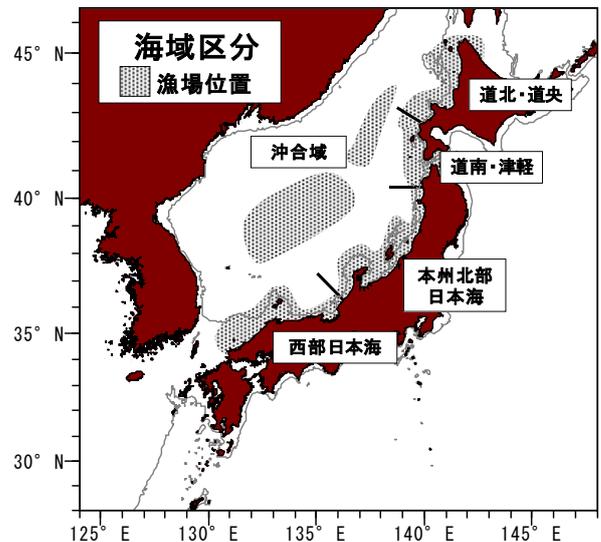
対象魚群：主に秋季発生系群、後半は冬季発生系群も含む

(1) 全体のポイント

今期の日本海全体の来遊量は前年を上回り、近年平均を下回る。

(2) 漁場ごとのポイント

- ・ 道央・道北では前年を上回り、近年平均を下回る。
- ・ 道南・津軽では前年および近年平均を上回る。
- ・ 本州北部日本海は前年同様、夏季に漁場が形成され、前年並で近年平均を上回る。
- ・ 西部日本海では近年同様、漁場が形成されにくく、前年および近年平均を下回る。
- ・ 沖合域では前年を上回り、近年平均を下回る。漁場は、北海道西沖で8月~11月、大和堆周辺海域で11月~12月に形成される。



☞ 近年平均は最近5年間(平成27年~令和元年)の平均、前年は令和元年を示します。

日本海スルメイカ漁況予報の概要

2020年度第2回日本海スルメイカ長期漁況予報では、表1のとおり5つの海域ごとに来遊量・漁況および漁期・漁場が予測されています。予報内容は、次の4つの情報に基づいています。

- (1) 令和2年1月～6月までの日本海沿岸各地のスルメイカ漁況の経過
- (2) 令和2年6月中旬～7月上旬に実施された日本海スルメイカ漁場一斉調査の結果
- (3) 冬季発生系群を主体とした太平洋側のスルメイカの来遊状況²⁾
- (4) 漁期前半（令和2年7月中旬～9月）の海況予報³⁾

表1 2020年度第2回日本海スルメイカ長期漁況予報の内容

漁場	範囲	来遊量・漁況	漁期・漁場
道北・道央	宗谷～後志	今期前半は前年を上回り、近年平均を下回る。	8月までと10月～11月に来遊のピークがある。
道南・津軽	渡島、檜山、青森県	前年および近年平均を上回る。	8月までに来遊のピークがある。
本州北部日本海	秋田県～石川県	前年並で近年平均を上回る。	前年同様、夏季に漁場が形成される。
西部日本海	福井県～長崎県	前年および近年平均を下回る。	近年同様、漁場が形成されにくい。
沖合域	北海道西沖～大和堆周辺海域	前年を上回り、近年平均を下回る。	北海道西沖で8月～11月、大和堆周辺海域で11月～12月に漁場が形成される。

本紙では、島根県沖を含む「西部日本海」および「沖合域」に関する予報の詳細を紹介します。その他の海域については「2020年度第2回日本海スルメイカ長期漁況予報¹⁾」をご覧ください。

(i) 西部日本海（福井県～長崎県）

西部日本海では5月～6月に沿岸域を北上し、10月以降に沖合から南下する群（秋季発生系群）が漁獲対象となります。ただし、近年その南下群の10月～12月の漁獲は低調な傾向にあります。

今期後半の来遊量の目安となる日本海スルメイカ漁場一斉調査の全調査点の平均 CPUE（釣機1台1時間あたりのスルメイカ採集尾数の平均値）は前年および近年平均を上回ったため、今期後半に沖合から来遊する群は前年より多いと予測されます。しかし、近年は漁場が形成されにくい年が続いているため、今期の来遊は前年および近年平均を下回ると予測されます。

(ii) 沖合域（北海道西沖～大和堆周辺海域）

沖合域では従来、6月～12月にかけて大和堆周辺海域に、水温の高い8月下旬～9月には北海道西沖にも漁場が形成されてきました。しかし、近年は漁場が北偏化し、8月～11月は主に北海道西沖に漁場が形成され、大和堆周辺海域では6月～7月および11月～12月に漁場が形成される年が多くなっています。

日本海スルメイカ漁場一斉調査の本海域における平均 CPUE は、前年および近年平均を上回りましたが、きわめて CPUE が高い点の影響が大きいため、沖合域への来遊は低調であった前年を上回り、近年平均を下回ると予測されます。

また、漁期・漁場については、今期前半の表面水温が「やや高め」と予測されているため、近年同様、北海道西沖で 8 月～11 月、大和堆周辺海域で 11 月～12 月に漁場が形成されると予測されています。

島根県沖での漁況

主要 3 港（浜田、恵曇、西郷）における小型いか釣漁業（5 トン以上 30 トン未満）によるスルメイカの月別の水揚動向を図 1 に示しました。令和 2 年 1 月～同年 6 月までの水揚量は 106 トンで、同期間で比べると、前年（173 トン）、近年平均（364 トン）を下回りました（前年比 61%、近年比 29%）。例年、島根県沖では 1 月～3 月に日本海を南下してくる冬季発生系群を漁獲していますが、冬季発生系群の来遊量が極端に少なかったことが不漁の要因と考えられます。

今後の島根県沖での主な漁場形成は 10 月以降になると考えられますが、平成 21 年以降、10 月～12 月の水揚量の落ち込みが顕著です（図 2）。今回の予報でも今期（8 月～12 月）の西部日本海では漁場が形成されにくいとされ、島根県沖でのスルメイカ漁況は低調に推移する可能性が高いと考えられます。

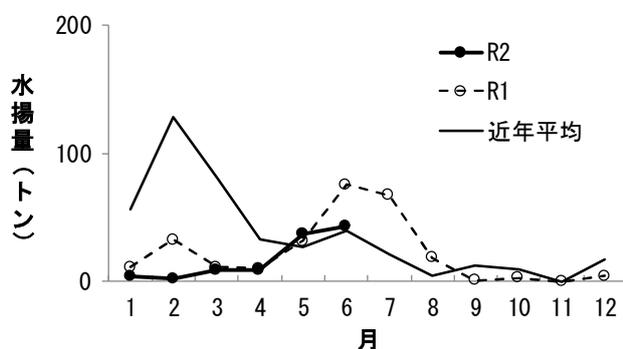


図 1 主要 3 港（浜田、恵曇、西郷）におけるスルメイカの水揚動向（浜田は属地、恵曇、西郷は属人統計値）

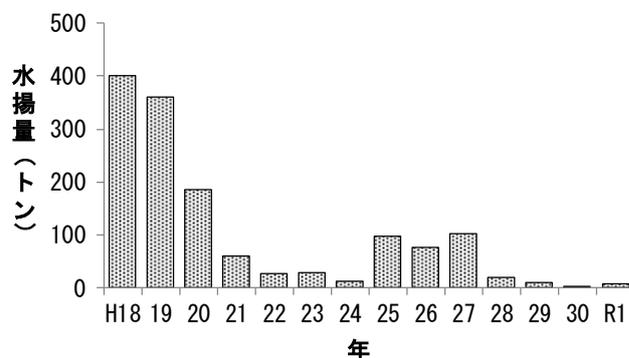


図 2 主要 3 港（浜田、恵曇、西郷）における 10 月～12 月のスルメイカの年別水揚動向（浜田は属地、恵曇、西郷は属人統計値）

※本文中で引用した情報元

- 1) 国立研究開発法人 水産研究・教育機構「2020 年度第 2 回日本海スルメイカ長期漁況予報」令和 2 年 7 月 29 日 (http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2020/20200729_n/20200729_n.pdf).
- 2) 国立研究開発法人 水産研究・教育機構「2020 年度第 2 回太平洋スルメイカ長期漁況予報」令和 2 年 7 月 29 日 (http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2020/20200729_t/20200729_t.pdf).
- 3) 国立研究開発法人 水産研究・教育機構「2020 年度第 2 回日本海海況予報」令和 2 年 7 月 8 日 (<http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2020/20200708/20200708press.pdf>).